ITガバナンス

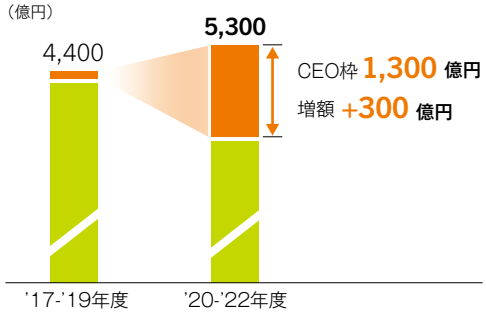
基本的な考え方

成熟期を迎えた国内と、今なお成長を続ける海外。デジタル技術活用機会の拡大と、セキュリティ対応の強化。DI・DX推進の必要性と、なお過半を占める既存IT領域の重要性。システムの所有と利用。ハイブリッド化が進むITを巡る環境変化の中にあり、ガバナンスを発揮し経営・業務を支える“両利き”でのIT戦略を推進します。

IT投資戦略

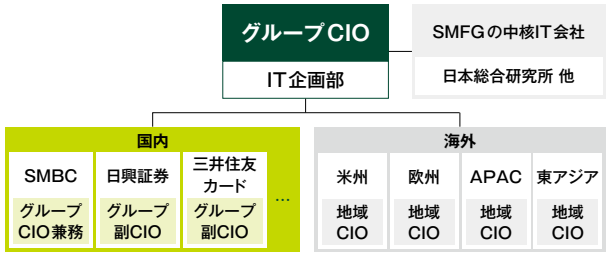
SMBCグループのさらなる成長と国内外におけるデジタル戦略加速のため、グループCEOが「将来の成長が期待できる分野」と判断したものに機動的に投入できるCEO枠を300億円増額し1,300億円としました。現中期経営計画のIT投資総額は5,300億円として、既存のIT領域への投資を適切にコントロールし、デジタル化推進・経営基盤強化やレジリエンス強化・事業戦略の実現といった戦略的な投資へ重点的に資源配分していきます。

成長に向けIT投資を増額



グループ・グローバルITガバナンス

業務ごと・地域ごとに異なる規制へのシステム対応や、スピード感ある戦略をグループ最適で推進するため、連邦型のITガバナンス体制を敷いています。すなわち、グループCIOの下、国内では主要グループ会社であるSMBC日



興証券、三井住友カードに副CIOを設置し、海外では米州・欧州・APAC・東アジアにそれぞれ地域CIOを設置することで、グループ・グローバルで効果的に運営しています。

デジタル子会社ガバナンス

早くからDXを推進してきたSMBCグループでは、「社長製造業」のキーワードの下、数多くのデジタル子会社を設立しており、ポラリファイのeKYC等、年間1,000万件以上ご利用いただいているサービスも出てきています。デジタルサービスの利便性を損ねず、同時にSMBCグループとして期待される品質を担保できるようにガバナンスを強化し、既存サービスとの連携による新たな価値創出に努めていきます。

デジタル社会の持続的成長を支える人材育成

SMBCグループのデジタル化を加速し、お客さまや社会へ貢献していくには、IT専門部署だけでなく全従業員がデジタルマインドやIT基礎知識を身に付ける必要があります。SMBCグループ横断でITやデジタル化に関する教育を推進すべく「デジタルユニバーシティ」を社内に設置し、全従業員を対象としたデジタルITリテラシー研修や、実務に活かせるデジタルスキル研修を提供しています。コンテンツには実際のシステム化プロジェクトから得られたノウハウを活用したカリキュラムや最新技術のユースケース等、SMBCグループオリジナルのものも多数揃えており、社内外の知識を効率的・体系的に学ぶことができます。

サイバーセキュリティ

重要インフラサービスに深刻な影響を与えるサイバー脅威のリスクに対応するため、SMBCグループは当該リスクをトップリスクのひとつに掲げ、「サイバーセキュリティ経営宣言」を策定し、セキュリティ対策を大幅に強化しています。

経営主導の体制強化のため、グループCIO・CROの下にシステムセキュリティ統括部長を「CISO（Chief Information Security Officer）」という専門的な責任者として配置し、サイバー脅威のリスクに対する戦略推進を担う役割・責任を明確化しています。加えて、「CSIRT」「SOC」を設置する等、進展するサイバー脅威に適合したレベルの体制を構築し、脅威情報・観測事象の分析結果やセキュリティ対策の状況は定期的に取締役会および経営会議の場で議論しています。

CSIRTはサイバーセキュリティを専担とするシステムセキュリティ統括部が中心となって構成する組織で、サイバーインシデント発生に備え、攻撃者の手口や脆弱性情報等をグループ内外から積極的に収集し、各国当局や米国のFS-ISAC*、日本のISAC等の外部機関とも必要に応じて共有しています。

SOCは日本総合研究所を中心に組織しており、高まるサイバー脅威のリスクに備えるべく、グループ各社監視体制の一元化推進、24時間365日グローバル監視体制構築等、欧米・アジア地域SOCとも連携しながらセキュリティ監視の強化に努めています。

* Financial Services Information Sharing and Analysis Center

SMBCグループのサイバーセキュリティ経営体制